

平成28年度ペットフード産業実態調査の結果について

一般社団法人 ペットフード協会

ペットフードメーカーなど、94社（正会員59社、賛助会員35社）で組織する一般社団法人ペットフード協会【東京都千代田区、会長：石山恒】は、平成28年度（平成28年4月1日～平成29年3月31日）ペットフード産業実態調査を行ない、その結果が以下の通りまとめられました。詳細に関しては別紙資料をご参照願います。

調査の結果、ペットフード産業の出荷総額は285,607百万円で、対前年度比は107.6%と2年ぶりに7.6ポイント増加し、最高値を更新しました。

しかしながら、出荷量は、597,421トンで、対前年度比99.3%と0.7ポイント減少しました。

主要点は以下の通りです。

1. 出荷金額：用途別

犬用の出荷額は対前年度比102.8%と増加、猫用の出荷額は対前年度比113.8%と大幅に増加しました。その他のペット用の出荷額は、対前年度比98.6%と減少でした。

2. 出荷金額：製品タイプ別

犬用は全体の53.2%を占めるドライタイプの出荷額が対前年度比97.6%と微減でした。全体の12.4%を占めるウェットタイプの出荷額は、対前年度比132.1%と大幅に増加しました。

猫用は全体の52.0%を占めるドライタイプの出荷額が対前年度比104.2%と増加しました。全体の43.5%を占めるウェットタイプの出荷額も対前年度比126.9%と大幅な増加でした。また猫用その他（オヤツ等）の出荷額は、対前年比123.4%と昨年に続き大幅に増加しました。

3. 出荷数量：国内生産品と輸入品別

国内生産品の出荷量は対前年度比103.2%と増加でしたが、輸入品の出荷量は94.9%と減少しました。

4. 出荷数量：用途別

犬用の出荷量は対前年度比96.0%と4ポイント減少しました。猫用の出荷量は昨年に続き103.1%と増加しました。

犬・猫用を除く、その他のペット用の出荷量は99.4%と微減でした。

5. 出荷数量：製品タイプ別

犬用は全体の70.6%を占めるドライタイプの出荷量が対前年度比94.3%と減少しました。全体の10.3%を占めるウェットタイプの出荷量も対前年度比95.7%と減少しました。

猫用は全体の67.1%を占めるドライタイプの出荷量が対前年度比102.3%と昨年に続き増加しました。全体の31.7%を占めるウェットタイプの出荷量も対前年度比104.0%と昨年に続き増加しました。

6. 出荷数量：国内生産品

国内生産犬用の出荷量は対前年度比99.4%と微減でした。国内生産猫用の出荷量は対前年度比108.1%と大幅な増加となりました。国内生産のペットフード合計も対前年度比103.2%と増加しました。

7. 出荷数量：輸入品

輸入品犬用の出荷量は対前年度比92.6%と大幅に減少しました。一方、輸入品猫用の出荷量も対前年度比97.6%と減少しました。輸入品のペットフード合計も対前年度比94.9%と減少しました。

8. 国別輸入数量

今年度、国別輸入量において最大の輸入国はタイ、次いでフランス、アメリカの順でした。輸入国増減率では、フランス、カナダ、オーストリア、イタリア、ニュージーランド、台湾、インドネシアからの輸入量が増加しました。一方、タイ、アメリカ、オランダ、オーストラリア、中国、チェコ、韓国の輸入量は減少しました。

以上